



やらまいか

クラブテーマ：スマイルロータリー、新時代へ進化

会長／太田 稔 幹事／池田 弘 会報委員会／乙部享祐・杉浦和人・原田浩史

例会会場／毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所 事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内

Tel.0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP: <http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第3回 通算 1724回 2023年7月25日 (火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	7/4 修正出席率
		72名	34名	54.8%	84.8%

ゲスト：市内5高校生徒18名・教諭5名 ※Zoom参加も含む ビジター：(なし)

★会長あいさつ



太田稔会長

こんにちは。7月12日に豊川 RC の例会に幹事と訪問して参りました。当クラブとの例会の進行の違い

が分かり、勉強になりました。

本日は、高校生の皆さんのボランティア活動発表の例会です。ボランティアについて調べてみました。ボランティアの4原則は、自主性・主体性、無償性・無給性、社会性・連帯性、創造性・先駆性だそうです。ボランティアの中に有償ボランティアと無償ボランティアがあるそうです。無償ボランティアがボランティアだと思うのですが、有償ボランティアとアルバイトの違いがあるのかなと思いました。

私は、自主防災会にずっと入っています。随分と前から防災ボランティアコーディネーターということで、豊川市に登録をしています。豊川市の方から何回かフォローアップ研修に来てくださいと案内をもらっていますが、時間が取れなくて参加することができません。忘れてしまうこともあるので、続けていけないといけなと思っています。

9月から“ラーケーション”という制度が始まるそうです。これは、コロナ禍で仕事をしながら休む

“ワーケーション”という Working と Vacation と同じ形で、Learning と Vacation でラーケーションという制度が9月から学校に導入されるそうです。親の休みに合わせて子どもを休ませて、色々な学習や体験をさせるということです。私も子どもが小学生や中学生の時に、自分と子どもの休みが一緒ではなかったので、私の休みに子どもたちを休ませて遊んだことがあります。

本日の例会は、愛知県の教育委員を務めている度会青少年奉仕委員長の担当例会です。どうぞよろしくお願いいたします。

★幹事報告

池田弘幹事

例会臨時変更のお知らせ

7月30日の納涼例会について
例会休会について

★青少年奉仕委員会担当例会

委員長あいさつ

度会秀子委員長



こんにちは。本日は皆さんにお集まり頂きましてありがとうございます。ロータリーの四つのテストの一つに「みんなのためになるかどうか」

があります。高校生の皆さんも忙しい日常の合間に、

みんなのためにボランティア活動に励んでおられることと思います。とても素晴らしいことだと思います。今日は、その発表をとて楽しみにしています。また、ほかの学校の皆さんの取り組みも聞いて頂きながら、明日からのボランティア活動のヒントにして頂ければと思います。今日は短い時間ですが、最後まで楽しんで頂けるようにと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

活動費の贈呈



※国府高校と豊川工科高校には、後日委員長が活動費を届けました。

各学校の活動発表

国府高等学校 (Zoom)

国府高校のボランティア活動について発表します。

最初にゆうあいの里ボランティアについて説明します。私たちは、5月の中間考査最終日にゆうあいの里ふれあいセンターに行きました。まず、職員の方の指示のもと、男子はプランター運び、女子は花壇の雑草取りを行いました。プランター運びでは、荷台を使って2階にあった数十個のプランターを1階の玄関へと運びました。また雑草取りでは、ゆうあいの里の玄関前の花壇に生えている雑草を私たちができる範囲で取り除きました。炎天下の中ではありますが、こまめに水分を取って熱中症対策を心掛けながら、みんなで協力して行ったお陰で、とてもスムーズに進めることができました。教員2名、生徒会5名、有志8名、計15名の協力と職員の皆さんの適切な指導の下で予定より早くに花壇の雑草を取り終えることが出来ました。このボランティア活動を通して、職員の方々に加え、利用者の方々に「ありがとう」とお礼の言葉を頂けたので、ボランティアに参加して良かったなと思いました。また、相手

も自分も笑顔になれるボランティアの素晴らしいところを沢山の人の知ってもらえるように呼びかけを強化し、ボランティアに参加する機会を増やしていきたいと思いました。

次にアイシティ eco プロジェクトについて説明をします。これは、本校で集めた使い捨てコンタクトレンズケースのリサイクル活動を行っている会社へ送ることで、色鉛筆やうちわ、Tシャツに生まれ変わらせるという活動です。回収ボックスの場所としては、生徒会室前と各学年の昇降口に設置しました。この活動を行うことで、リサイクル等の再資源化によるCO2削減や高校単位で地域に呼びかけ、それに伴う地域の活性化に繋がると 생각합니다。ほかの活動もできるようにこれから考えていきたいと思っています。

最後にひょうたん池ボランティアについて説明をします。ボランティアの内容は、主にブラシを用いた清掃と池周りの清掃と池全体を覆うネット張りなどを行いました。今後はさらに環境整備を行い、みんなの憩いの場となるように力を尽くしていきたいと思っています。以上です。ご清聴ありがとうございました。

宝陵高等学校



宝陵高校生徒会が運営しているボランティア活動について発表します。

5月、9月、1月の年3回ワクチン購入に役立てるためエコキャップ運動をしています。昇降口と各教室にボックスを配置し、ペットボトルキャップ回収を

しています。昨年度は36万個集めることが出来、ポリオワクチン45人分にあたる寄付をすることができました。

次に募金活動です。社会貢献活動の一つとして行い、生徒会で募金先を決定して行います。5月の募金額は、3,241円でした。

クリーン活動は、年4回行っています。通学路を清掃し、地域の方々に感謝の気持ちを表すため、生徒会の呼びかけにより多くの生徒が参加しています。

最後はあいさつ運動です。期間中毎朝、昇降口に立ち、あいさつの習慣化をはかり、思いやりの心を育てる目的で行っています。

以上が生徒会活動のボランティア活動になります。

生徒会企画以外にも個人で申し込み、ボランティア活動を行っています。取り組みの流れは、担当の先生のもとに案内が届き、担任の先生がクラスで呼びかけをします。希望者が担当の先生に申し出る流れになっています。今年は福祉科の1年生が積極的に参加しています。

豊川リレーマラソンには、今年8名が参加をしました。

今後の活動としては、今までの活動を継続して行い、参加人数を増やせるよう生徒会で働きかけを続けていきたいと思っています。職員室の前や昇降口などみんなが良く行く場所に、ボランティアを紹介するコーナーを作ったり、生徒会新聞にボランティア情報を載せる取り組みをしていきたいです。ご清聴ありがとうございます。

御津あおば高等学校



私たち生徒会では、ボランティア活動として令和3年度から継続してペットボトルのキャップを集めています。校内にキャップ入れを設置し回収をします。これは加山興業さんの協力によりペットボトルキャップの売上金が全額ワクチンを送る費用

となり、貧困に苦しむ世界の子供たちに届けられるというものです。今年6月に持って行ったキャップは、70キロありました。調べてみると、これはポリオ・結核などのワクチン64人分となります。世界の恵まれない子どもたちが、一人でも多く命を落とさずに生きていけるように今後もこの活動を続けていきたいと思っています。

中庭の手入れもしています。令和3年度に豊川宝飯ロータリークラブさんの協力により、全く活用されていなかった中庭が花でいっぱいのくつろぎのスペースになりました。今も季節ごとの花を植えたり、草取りや水やりなどの手入れを継続しています。

その他にもボランティアとして、豊川市教育委員会スポーツ課から依頼のあった6月4日に行われた豊川リレーマラソンに給水ボランティアとして6名の生徒が参加しました。とても暑い中、参加者の皆

さんがリレーをしているのをサポートしながら応援することができ、とても良い体験になりました。

7月から8月に行われる“豊川ボラナビ”には、2名の生徒が参加予定です。

今後は、落ち葉の季節には清掃ボランティア、年末には助け合い募金を行う予定です。

毎週水曜日と金曜日の昼休みに“Radio MITO”という校内放送をしています。色々な情報やインタビュー、クイズ、挨拶などの簡単なポルトガル語や韓国語の講座などのほか、ボランティアへの参加募集も呼びかけています。毎回みんなが楽しく食事をしながら聞いてもらえるように、内容を考えて放送し、最後にリクエスト曲をかけています。

私たちは、全てにおいてボランティアの気持ちを大切に、周りの人たちが笑顔になってほしいと願いながら活動をしています。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございます。

小坂井高等学校



小坂井高校の活動報告をします。私たちは小坂井高校前期生徒会役員です。

はじめに生徒会行事についてです。6月には体育祭を実施しました。3年ぶりの開催という1年生から3年生全員が高校で初めての体育祭でした。私たちは体育祭の運営補助だけでなく、体育祭を盛り上げるために何かできないか試行錯誤をしました。生徒会は、体育祭を盛り上げるために何をしましたでしょうか。それはBGMです。生徒の皆さんや先生からも募集をしました。当日は大雨の影響で体育祭の開催が心配されていましたが、熱く楽しい競技の合間にBGMが流れ、とても良い雰囲気で行うことができました。小坂井高校には「台風の日」という競技があり、竹をもってクラス内でリレー方式で競争していくものになります。

9月には“はぐま祭”という小坂井高校の文化祭があります。今年から食品バザーと物品バザーが可能となり、クラス企画の選択肢も増えたので、とても盛り上がるものになると思います。全校生徒からアイデアを募集し、生徒会で審議した結果、今年の

スローガンは「NO HAGUMA NO LIFE」に決まりました。現在私たちは、文化祭の生徒会企画として、フォトコンテストと小坂井生の主張を考えています。小坂井生の主張は、昨年度も行った企画で、新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な規制がされた中で、大きな盛り上がりを見せました。今年度の2学期の大きな行事でもある“はぐま祭”をよりよい行事にするために企画・当日の運営等も頑張っていきたいです。

次にボランティアについてです。令和5年度は、すでに74名がボランティアに参加をしています。社会福祉施設等でのボランティア以外にもスポーツイベントや地域のお祭りの準備、当日の運営補助などにも積極的に参加をしています。

最後に普段の生徒会の様子です。行事やボランティア活動だけではなく、校則についても話し合っています。例えばスマホの取り扱いや行事の時の髪型についてです。コロナの規制が緩和され、小坂井高校は更にパワーアップしています。これからの小坂井高生の挑戦を温かく見守ってください。これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

豊川高等学校



令和5年度前期生徒会執行部です。今日は豊川高校で行っているボランティア活動について報告します。

最初に地域清掃についてです。この活動は昨年度から取り入れたもので、豊川高校の最寄り駅や稲荷公園など豊川高校

生徒が登校時に多く通る道を清掃しました。全校生徒にも投げかけ、インターアクトクラブや女子バスケット部、Eスポーツ部などの部活参加もあり、100名近くの生徒が参加し、日ごろの感謝を込めながら豊川の街を清掃しました。清掃中に声をかけて頂くなど、地域からも評判がよく、達成感や充実感もとても多かったです。

私は生徒会執行部として、地域清掃に参加しました。毎日私たちが使わせて頂いているところを清掃したことにより、もっと毎日綺麗に使おうという意識が芽生えました。そして地域の方から「ありがと

う」という言葉を掛けて頂き、それが私たちの頑張りの糧になり、豊川の温かさも改めて感じました。また、他学年の生徒と交流する機会ができるため、とても有意義な時間になりました。これからもこの地域清掃活動は1学期に1回のペースで行おうと考えており、今回は2学期末を予定しています。校内での認知度を高め、清掃範囲を広げるとともに、活動範囲を広めることで、地域とのつながりを深められるようなボランティア活動に発展させて行きたいです。

次に供養塔清掃についてです。1945年8月7日豊川海軍工廠が空襲にあい、2500人以上の方が命を落としました。私たちの豊川高校の先輩6人もこの空襲で亡くなられており、8月7日は豊川高校にとって大切な日です。また、この日は毎年、豊川高校の登校日となっており、校内で追悼式などが行われます。私たち豊川高校生徒会執行部は、戦争の痛みを風化させないために、そして平和を未来に繋げるために何かできないかと考え話し合った結果、活動を終了した八七会の意思を受け継ぎ、供養塔の清掃を続けていくことにしました。毎月7日の朝に供養塔清掃を行っています。生徒会執行部だけでなく、部活動やクラスからの参加もあり少しずつ平和の輪が広がっています。この活動を通して地域の新聞に掲載されたり、元八七会の方から感謝のお手紙を頂くなど、地域との繋がりも感じられます。

私は、供養塔清掃に約1年間参加し続けています。最初は何も考えずに活動をしていました。しかし、8月7日の追悼式に豊川海軍工廠での空襲の記録を聞かせて頂きました。「家にいたときに空襲警報が出て逃げるために麦畑に姿を隠した」「空襲から逃げるのに必死で生き残ることしか考えていなかった」など体験した人にしか分からないリアルな話を聞いて、戦争の怖さや平和の大切さを改めて感じる機会になりました。これからも豊川高校の伝統として供養塔清掃活動を続けていくことで空襲の記憶を風化せず、平和について考えることを忘れずに次の世代に伝えていきたいです。

最後に金沢町の佐久間さんのバラ農園で行われたボランティアの活動報告をします。6月2日の大雨により豊川市を含む東三河一帯は大きな水害にあいました。その一つが豊川市金沢町です。私たちが訪問したバラ農園では、ビニールハウス内で2メートル近く水位が溜まり、バラは全滅、バラを管理する機械は殆ど使えなくなっていました。今回のボランティア活動では、愛知ボランティアセンターという

名古屋の団体が主催で行われました。豊川高校の生徒は9名参加し、合計70名以上の方が集まりました。またテレビ局の東海テレビとメーテレの取材があり、それぞれ当日の昼や週明けのニュースになっていました。YouTubeにもその時のニュースを見ることができます。

当日の活動内容は、①バラをばらけさせる ②バラを外に運ぶ ③バラを畑へ運び、積み重ねる ④ビニールハウス内の片づけしました。これらの作業はビニールハウス内で行われたため、中はとても熱がこもり、とにかく汗が止まりませんでした。更にバラのトゲは鋭く、軍手や薄い長そではトゲが貫通し、細かいチリやホコリも舞い肌が出ている部分はとてもいた痒くなりました。

私はこのボランティア活動を通して、たくさんを感じました。周りの友達からやニュースで大きな被害があったことは聞いていましたが、当日初めてバラ農園のハウスの中を見た時の衝撃はいまでも忘れられません。大雨の影響で、自分の地元では、こんな被害が起ってしまったんだ、こんな復興できるのかな、などとても悲しい気持ちになりました。そんな中で始まったボランティア活動は、どの作業も大変できつかったことが多かったです。自然と助けたいという気持ちが芽生え、一生懸命活動を行いました。作業が終わった後、佐久間さんから「これから前を向いて頑張っていきたい」という言葉を頂き、このボランティア活動を頑張って良かったと思いました。同時にこのような支援がないと前を向くことすらできない自然災害の恐ろしさを改めて感じました。同じような被害にあってしまった人は沢山いると思います。これからもボランティアなどの支援を考えていきたいです。以上で活動報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

★ボランティア・コラボ・穂の国7交流会

例会終了後に2つのチームに分かれてテーブルディスカッションをして交流会をおこないました。

テーマ

あなたにとってボランティアとは何ですか？どんなことをしたいですか？

まとめ

- ボランティアを通して交流して繋がりを深めることができる
- 地域の人との新しい繋がりをつくることができる
- 地元の小学校とかにも協力の呼びかけが出来れば、様々な年齢層の人が参加することができる
- ボランティアの良いところは、色んな年代が集まって活動できる
- ボランティアは大変だけど、自分の状況と照らし合わせる機会になる
- ボランティアをやると新しい考え方、新しい気持ちが生まれる
- 誰かのためにやるというのではなく自分のためにやる
- 身近なことからコツコツとやることで、社会に対して貢献できる
- 教育を受けられない子どもたちに自分たちが教えに行くボランティアをやってみたい
- 小中学校の給食の残飯を減らすためのボランティアができれば良い
- 地域清掃を学校だけでなく地域に呼びかけて行っていきたい
- 同じ募金活動をするときに学校同士で連携して実施した方が良い